

言葉の発見に始まった文明は、その進歩につれ、
文字の発明へと進化しました。
人間は互いに心を通わせるべく、あらゆる手段を尽くし、
さらにより早く、正確な伝達を行なうため、
実に様々なメディアを創り出しました。
そして今、パーソナルコンピュータを代表とする
マイクロエレクトロニクスがそれらに変わろうとしています。
コミュニケーションとコンピュータの融合により、
今や生活は、全く新しい展開を見せ始めました。
リアルタイムで感情や心の機微が伝わり、
コミュニケーションが活性化され、広がりとつづきます。
これをアスキーは、コンピュータカルチャーと呼びます。
人々が、コンピュータを「感動を伝える道具」とすることにより
ひとつの文化を創り出す可能性を
アスキーは、これからも皆様に提示していきたいと考えております。



TO
CREATE
"COMPUTER CULTURE"

CONTENTS 目次

PROLOGUE, HISTORY & OUTLINE ————— 3・4
プロローグ、沿革、会社概要

PUBLISHING DEPT. ————— 5・6
出版局

MICROSOFT FAR EAST HEADQUARTERS ————— 7・8
マイクロソフトFE本部

SOFTWARE R & D DEPT. ————— 9・10
ソフトウェア開発本部

SALES DEPT. ————— 11・12
営業本部

H.T.L., H.S.P. & OTHER DEPT.S ————— 13・14
ハイテック・ラボ、ホーム・ソフトウェア・プロダクツ、経営管理室、財務部

SALES, ORGANIZATION & BUSINESS CON.S ————— 15・16
主要取引先、売り上げ高、雑誌総発行部数、資本金推移、組織図、役員紹介

PROLOGUE

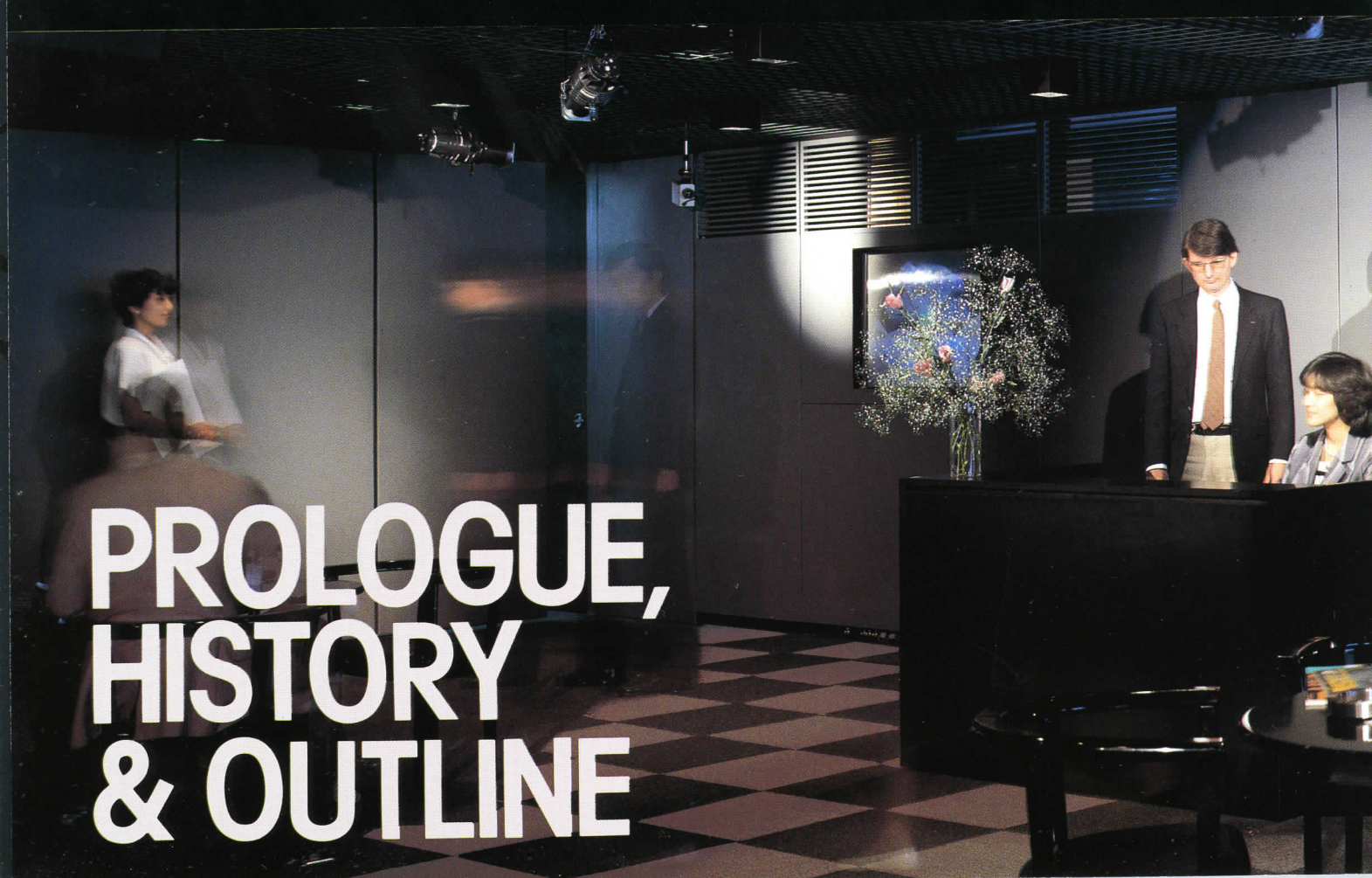
現在、コンピュータは最先端の通信技術と結びつき、ニューメディア時代を形成しつつあります。その、来たるべき未来において、コンピュータが真に楽しく、社会的に有用なツールとなるためには何をすれば良いか。株式会社アスキーは今、全社をあげてこの課題に取り組んでおります。人が心からコンピュータコミュニケーションを楽しみ、そこから新しい文化を創り出すためには、まず、コンピュータ利用への共感、その可能性への期待が必要です。そこで私たちは雑誌、書籍の出版販売、ソフトウェア開発、提供という方法で、コンピュータコミュニケーションの可能性、利用目的、利用法を提示し、「コンピュータカルチャー」の実現を示唆していきます。この役割を担うことにより、アスキーは新しい「対話」の時代に貢献していきたいと考えております。

取締役社長

郡司明郎

PRESIDENT / AKIO GUNJI

PROLOGUE, HISTORY & OUTLINE



HISTORY

OUTLINE

沿革

- 1977 ● 5月** 株式会社アスキー出版設立。
6月 月刊アスキー創刊。5000部発行。
- 1978 ● 10月** 米国マイクロソフト社と提携。同社
 極東代理店として(株)アスキー・マ
 イクロソフト(AMS)設立。
- 1980 ● 11月** (株)アスキー コンシューマ プロダク
 ツ(ACP)設立。
 オリジナルソフトウェア・パッケー
 ジの開発、販売開始。
- 1981 ● 3月** 本社を東京都渋谷区神宮前
 5-2-2瀬川ビルに移転。
- 1982 ● 5月** 月刊アスキー発行部数10万部
 を突破。月刊アスキー別冊として
 雑誌ログインを創刊。
- 11月** 本社を現住所に移転。
- 12月** 「株式会社アスキー出版」を「株
 式会社アスキー」に社名を変更。
- 1983 ● 4月** (株)アスキーコンシューマプロダク
 ツを(株)アスキーに併合、業務拡
 充をはかる。
 月刊ログイン創刊。
- 6月** 互換性のあるホームパーソナ
 ルコンピュータシステム「MSX」
 を提唱。
- 11月** 月刊MSXマガジン創刊。
- 1984 ● 4月** (株)アスキー・マイクロソフトを(株)ア
 スキーに併合、業務拡充をはかる。
- 10月** 月刊アスペクト創刊。
- 1985 ● 2月** グラフィックス用超LSI開発発表。
5月 「MSX」の上位仕様「MSX2」発表。

会社概要

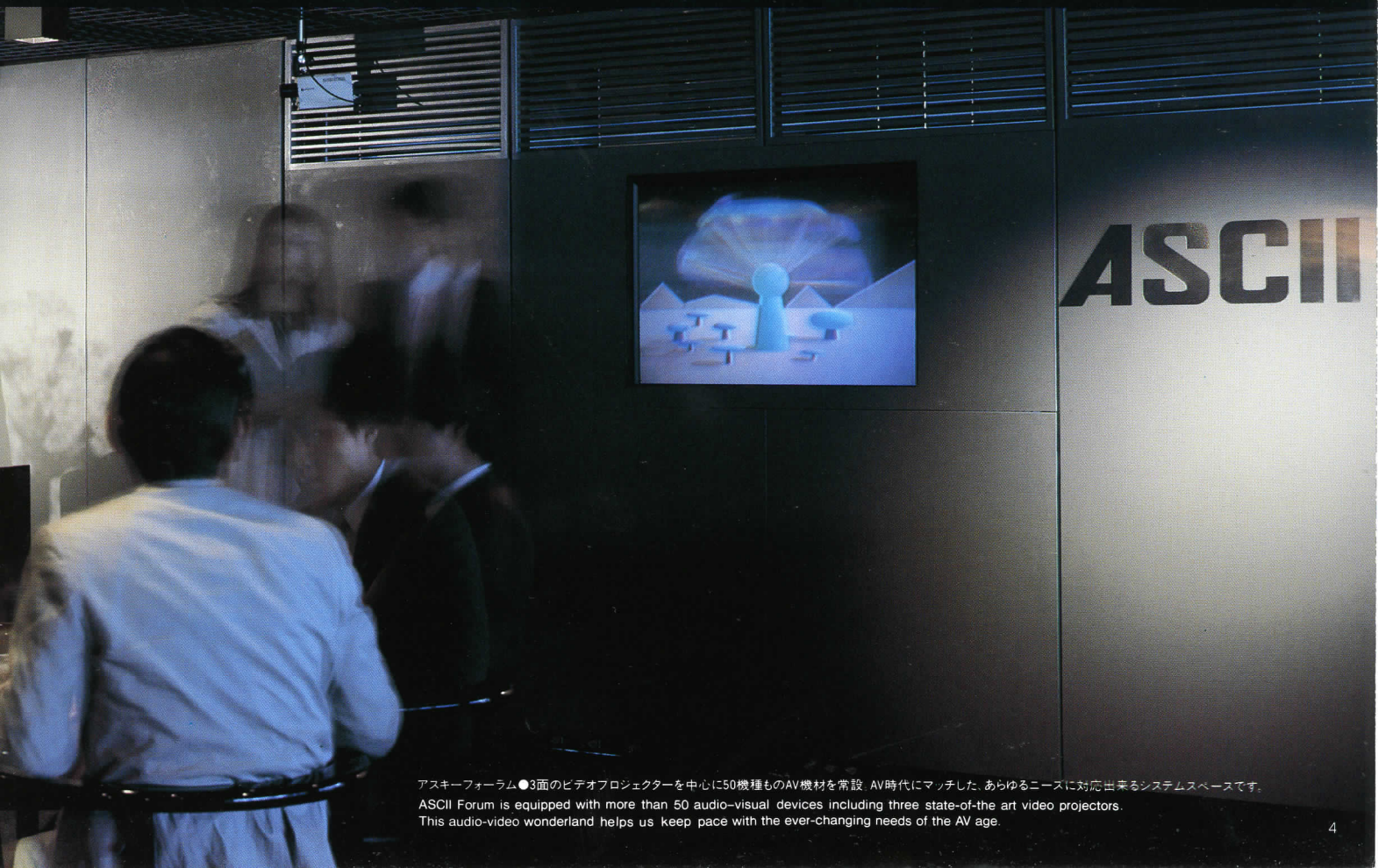
資本金	18億1,900万円
設立年月日	昭和52年5月24日
社員数	370名(昭和60年7月1日現在)
役員	取締役社長 郡司明郎 取締役副社長 西 和彦 取締役副社長 塚本慶一郎 取締役 吉崎 武 取締役 古川 享 取締役 浜田義史 監査役 堀越 董 監査役 西 邦大

本社 東京都港区南青山5-11-5

主要取引銀行 富士銀行、三和銀行、三菱銀行、
 住友銀行、日本興業銀行

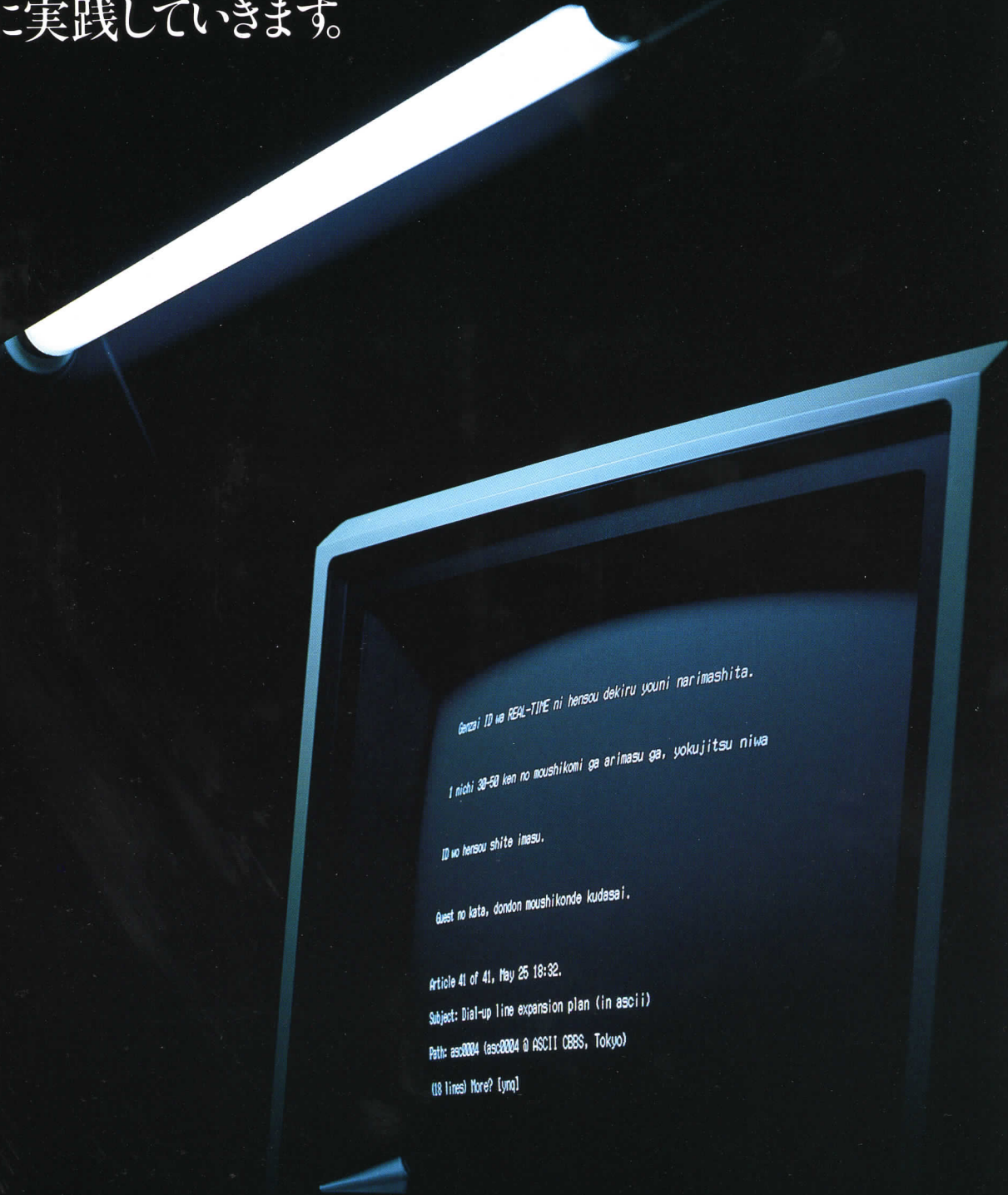


左より▶副社長 西 和彦 社長 郡司明郎 副社長 塚本慶一郎
 From the Left : Kazuhiko Nishi / Vice President,
 Akio Gunji / President,
 Keiichiro Tsukamoto / Vice President



アスキーフォーラム●3面のビデオプロジェクターを中心に50機種ものAV機材を常設。AV時代にマッチした、あらゆるニーズに対応出来るシステムスペースです。
 ASCII Forum is equipped with more than 50 audio-visual devices including three state-of-the art video projectors.
 This audio-video wonderland helps us keep pace with the ever-changing needs of the AV age.

パソコンの価値を常に考え
最も人間的な使い方を
読者とともに実践していきます。



Genzai ID wa REAL-TIME ni hensou dekiru youni narimashita.
1 nichi 30-50 ken no moushikomi ga arimasu ga, yokujitsu niwa
ID wo hensou shite imasu.
Guest no kata, dondon moushikonde kudasai.
Article 41 of 41, May 26 18:32.
Subject: Dial-up line expansion plan (in ascii)
Path: asc0004 (asc0004 @ ASCII CBBS, Tokyo)
[18 lines] More? [ynq]

**PUBLISHING
DEPT.**



タイムラグなしに多様な記事を提供する編集部
Editorial office: Gathering information worldwide and presenting it in a timely manner.

マイクロコンピュータの可能性を提示し、さらにその利用法を広く普及するアスキーの出版活動。雑誌4誌、入門書から専門書はもとより、マニュアル、ソフトウェアに至るまで「ユーザーの立場から」という一貫した編集方針で、コンピュータのエキスパートたちが取材と入念なチェックを行なっています。その正確な記事、わかりやすい内容は、テクニカル・ドキュメンテーションとして絶大なる信頼と評価を獲得。この信頼に応えるべく、今後も各種出版物の内容、関連サービスの拡充を図り、ユーザー動向をより正確に把握しながら、書籍・雑誌の「ペーパー」出版のみならず、日本最大のデータベースサービス「アスキーネットワーク」を中心とする電子出版事業を推進いたします。

アスキー編集部 ■ 当社発足の基礎である月刊アスキー。その発行元であるアスキー編集部では、日進月歩のパソコン関連技術を的確に捉え、ビジネス、生活に即応した誌面づくりを行ない読者の期待に応えます。

ログイン編集部 ■ パソコンを楽しむための多岐にわたるソフトウェア情報を満載、独自の視点からパソコン・エンタテインメントの世界を紹介する「月刊ログイン」を編集・発行しています。

MSXマガジン編集部 ■ ホームパソコンの可能性を大きく広げたMSX。その先進情報や生活に密着した活用法、ハードウェア情報等を的確に紹介する「MSXマガジン」を編集・発行しています。

アスペクト編集部 ■ パソコンの存在が当然のこととして定着しつつある現在、ビジネスマンがいかにか知的活動を営むか、さらに今後要求される叡知とは何かを、雑誌づくりを通して追求しています。

第一書籍編集部 ■ パソコン関連技術書の中で圧倒的な信用度とシェアを誇るアスキーの単行本群。それらに関する企画から技術内容全般までのチェックを一貫して行ない、品質保持に努めています。

第二書籍編集部 ■ 技術一辺倒のものだけではなく、人間的ハイテクノロジー志向の活動を行なっています。

アスキーのもうひとつのブランド、「MIA」の単行本はここから生まれます。

テクライト部 ■ 日本のパソコン界にテクニカル・ライターの地位を確立すべく、コンピュータ・メーカーとの緊密な協力関係を保ちながら新時代のマニュアルの出版プロデュースを行なっています。

電子出版部 ■ 現在、日本最大のテレコンピューティング事業「アスキーネットワーク」を運営するかたわら、関連書籍、ソフトウェアの出版、ニューメディア研究を行なっています。

海外部 ■ 米国マイクロソフト社出版部門と提携し、海外のコンピュータ関連書籍の邦訳、出版を行なっています。また、アスキーにおける海外情報の窓口としての機能も果たしています。


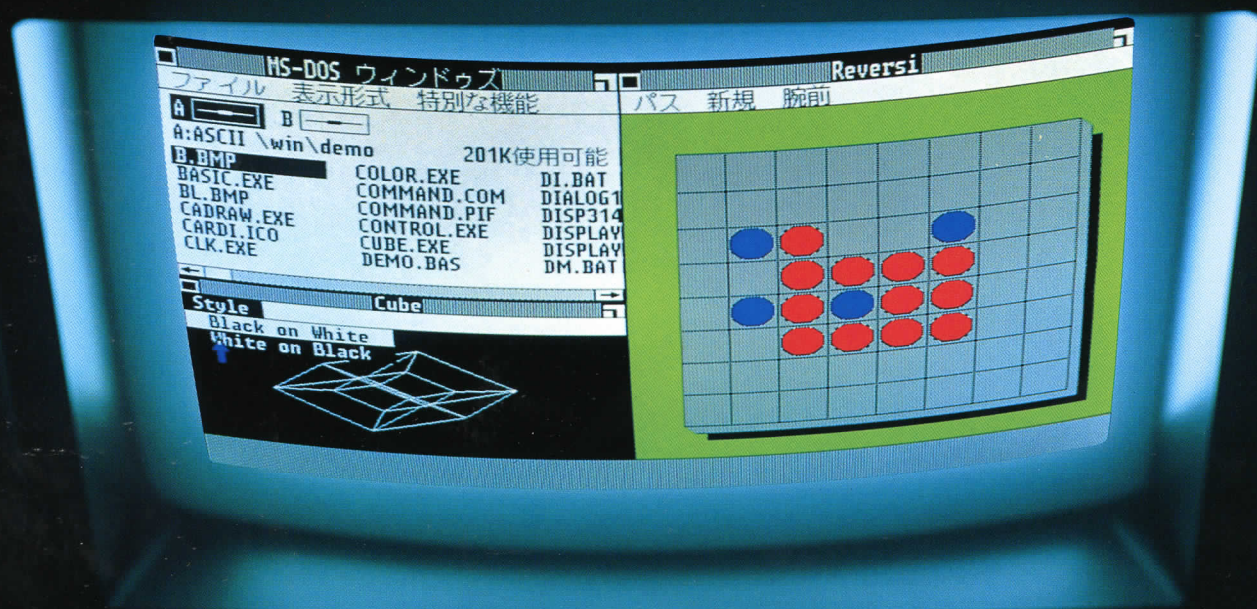
出版業務室 ■ 出版局製作物の発注業務、事業収支の算定及び予算案の策定、事務管理等が主な業務です。その他、社内のEDP化に伴うコード統一作業の窓口業務も行なっています。

市場開発室 ■ パソコンと一般消費者の間に立ち、ハイテク関連消費動向調査を行なっています。それに基づいた新製品のコンセプトづくりの活動は、社内、社外から高く評価されています。



アスキーの雑誌・書籍群は、趣味に、あるいは仕事にコンピュータを活用するユーザーを幅広くカバーします。
Magazines and books published by ASCII expand computer users' interests in leisure and business.

米国マイクロソフト社との提携のもと
常に時代を見通したソフトウェア技術を
提案します。



**MICROSOFT
FAR EAST
HEADQUARTERS**

世界で初めてパーソナル・コンピュータが誕生したとき、そこに搭載されているBASIC言語を作ったのが米国マイクロソフト社でした。それから8年後の現在、世界の個人用コンピュータの最先端に行く日米両国の主要なハードメーカーはこぞってマイクロソフト社のソフトウェア製品を採用しています。BASICなどの言語からはじまって表集計ソフトの代名詞になったマルチプラン、MS-DOSに代表される基本ソフトウェア、そしてさらにXENIX——常にその時代の技術要求に即応して発表してきたラインナップは、業界のスタンダードにもなってきました。MSFE本部では、それらの戦略の要衝である極東地域のオペレーションを担当し、MSXをはじめとする次世代パソコンへの基本仕様の提案及び開発を担当し、さらに独自のコンセプトに基づく超LSIの設計などの日本独自の技術開発力を生かした活動を行なっています。

マイクロソフトFE本部



米国マイクロソフト本社外観(ワシントン州ベルビュー)
Microsoft Headquarters (Bellevue WA USA)

第一営業部 ■ MSX2も発表され、今後さらに普及が見込まれるMSXのライセンス関連、ソフトウェア関連の営業活動を行なっています。また、現在開発進行中のVLSI、そしてパソコン通信に関わるビジネスをも推進しています。

第一技術部 ■ MSXのテクニカル・サポート、さらにMSXの将来的デザインコンセプトの研究、開発を含む、8ビットパソコンのソフトウェア開発を行なっています。また、ソフトウェアを考慮に入れたVLSIの研究、開発はここで担当されています。

第二営業部 ■ マイクロソフト製品のOEM営業及びライセンス業務、サポート業務を通じ、最終的にユーザーの方々のお手元に届くまでの製品管理を行なっています。また、マイクロソフト・ランゲージ製品に関する販売店のサポートも担当しています。

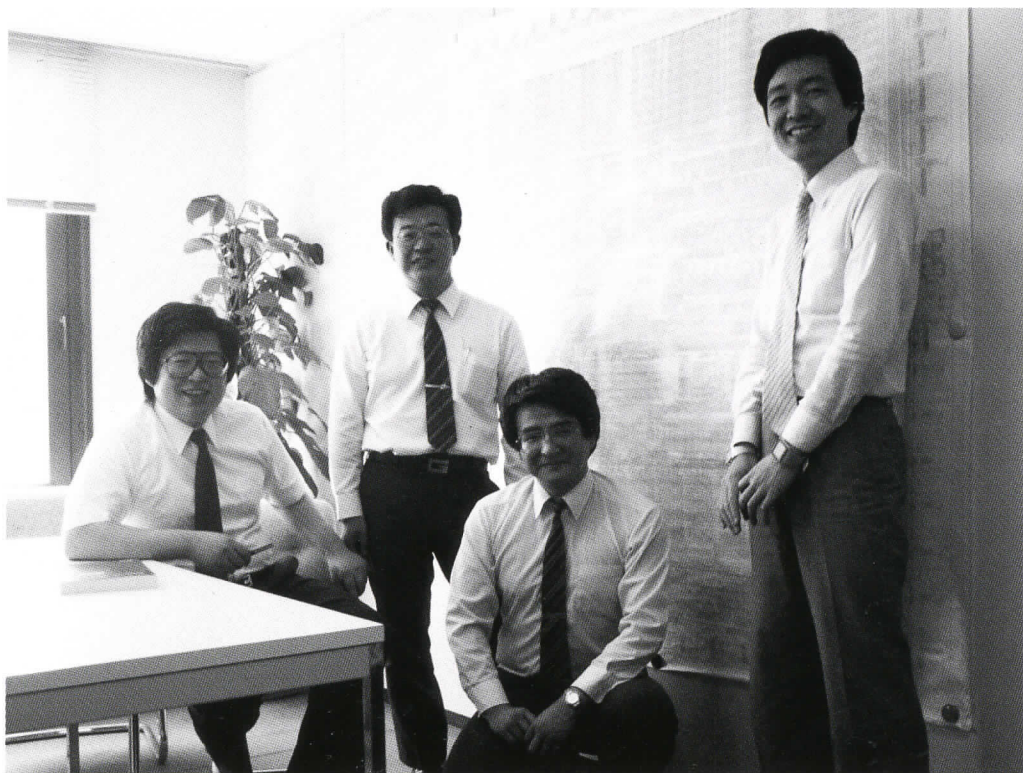
第二技術部 ■ マイクロソフト製品のテクニカルサポート、使用地域に合わせた改良、さらにアスキー独自の価値の付加などを担当しています。これらの業務を通して得たノウハウをもとに、より良いOAシステムの構築を目指しています。

XENIXプロジェクト ■ 現在注目を集めているUNIXをマイクロソフト社が改良、拡張を施した近未来的OS、XENIX286。アスキーではこのXENIX286に関するマーケティング、テクニカルサポート、地域特性を考えた改良などを既に推進しています。

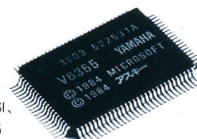
FEプロジェクト ■ 今日主流のAVとMSXを有機的に結びつけ、真のAVC時代を構築するべく研究、開発を行なうプロジェクトです。この他にも各種マイコン応用システムの研究なども進行中、近い将来に向けてコンピュータの可能性を拡大していきます。

マーケティング・グループ ■ 企業のEDP化、最先端テクノロジーなどに関する各種セミナー、イベントの企画、実行を通して、皆様にアスキーのノウハウを提供するとともに、ユーザーのニーズを調査する役割を果たしています。また、製品の媒体広告の企画も行なっています。

MSX事務局 ■ MSXに関するアスキーの蓄積されたノウハウをもとに、各協力メーカー、ソフトウェアハウスに対するサポート体制を整え、よりユーザーフレンドリーなMSXシステムの確立に力を注いでいます。

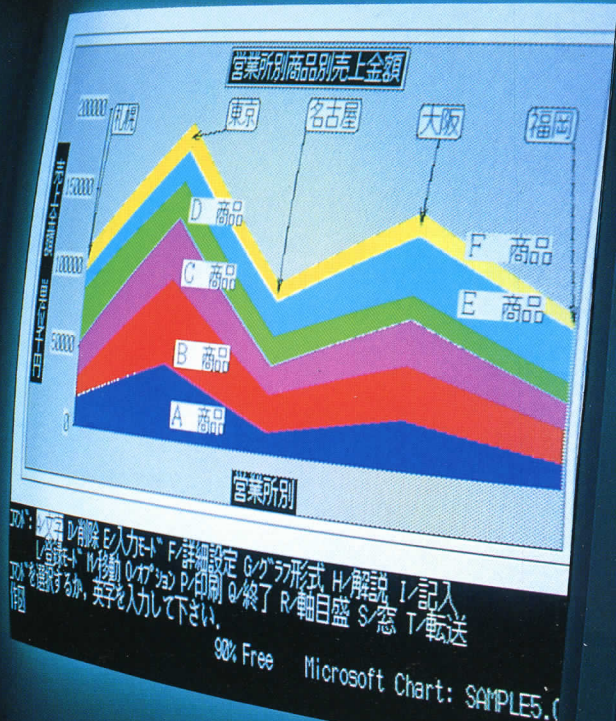


第1技術部超LSI開発プロジェクトチーム
The Technical Development Section's VLSI R & D Project Team



独自のコンセプトに基づく超LSI、
ディスプレイコントローラ、V6355

充実した開発環境のもと
先進的ソフトウェアの製品化に
取り組んでいます。



**SOFTWARE
R & D
DEPT.**

ソフトウェア開発本部



独自の技術力を駆使して高品質ソフトを生み出すソフトウェア開発本部
The Software R & D Dept. produces high-quality software using advanced techniques.

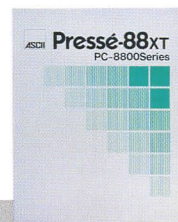
マンマシンインターフェイスを基本としたソフトウェアの開発。ソフトウェア開発本部では、このテーマを追求する中で数々の優れたソフトを世に出してきました。オリジナル製品の企画、制作に加え、次世代の標準OSと呼ばれるUNIXの日本語処理もいち早く完成。さらにUNIX、MS-DOS両方で稼動するデータベース、informixの製品化も実現しています。既にアスキーはOAシステムにUNIX/informixを採用。それをもとに、より一層のEDP化を図っています。その実践によるノウハウを今後のアプリケーションソフト開発にフル活用し、さらにユーザーフレンドリーで高品質なソフトの企画、開発を行なっていきたいと考えております。

ソフトウェア企画部 ■ここでは、ビジネスシステムのパッケージソフトウェアや、コンシューマ向けシステムソフトの企画、開発を主な業務としています。ソフトウェア開発本部の窓口として、幅広いマーケティングを行ない、そのデータに裏づけされた高品質ソフトを世に送り出しています。

第一技術部 ■UNIX関連、マイクロソフト関連プロダクツの日本語化、アスキー独自の機能強化などを行っています。その具体事例として、UNIXを日本で広く普及させるために、システム全体を日本語化した「漢字UNIX」の開発、さらに、真のリレーショナル・データベースが構築できるinformixの全データ日本語化などがあります。また、使いやすさが高く評価されたMultiplanに続くビジネスグラフ作成ツール、マイクロソフトチャートもここで開発。今後も高品質かつユーザーフレンドリーなソフトを皆様にご提供していきます。

第二技術部 ■表単位データ処理用日本語リレーショナルタイプデータベースPressé、パーソナルCADツールCANDY等のパッケージソフトの評価チェック、アスキーに委託されたソフトの加工などを行ないます。また、ニューメディアの分野ではビデオテクスの先鋒の役割も果たしており、ビデオテクスの国際標準規格最有力候補と言われるNAPLPSに早くから着目。独自の研究、開発を進めてきました。このNAPLPSにビデオディスクのリアルな画像と音響をドッキングし、知りたい情報をレーザーディスクによる「動く画面」で瞬時に取出せるシステム、NAVICの技術もサポートしています。

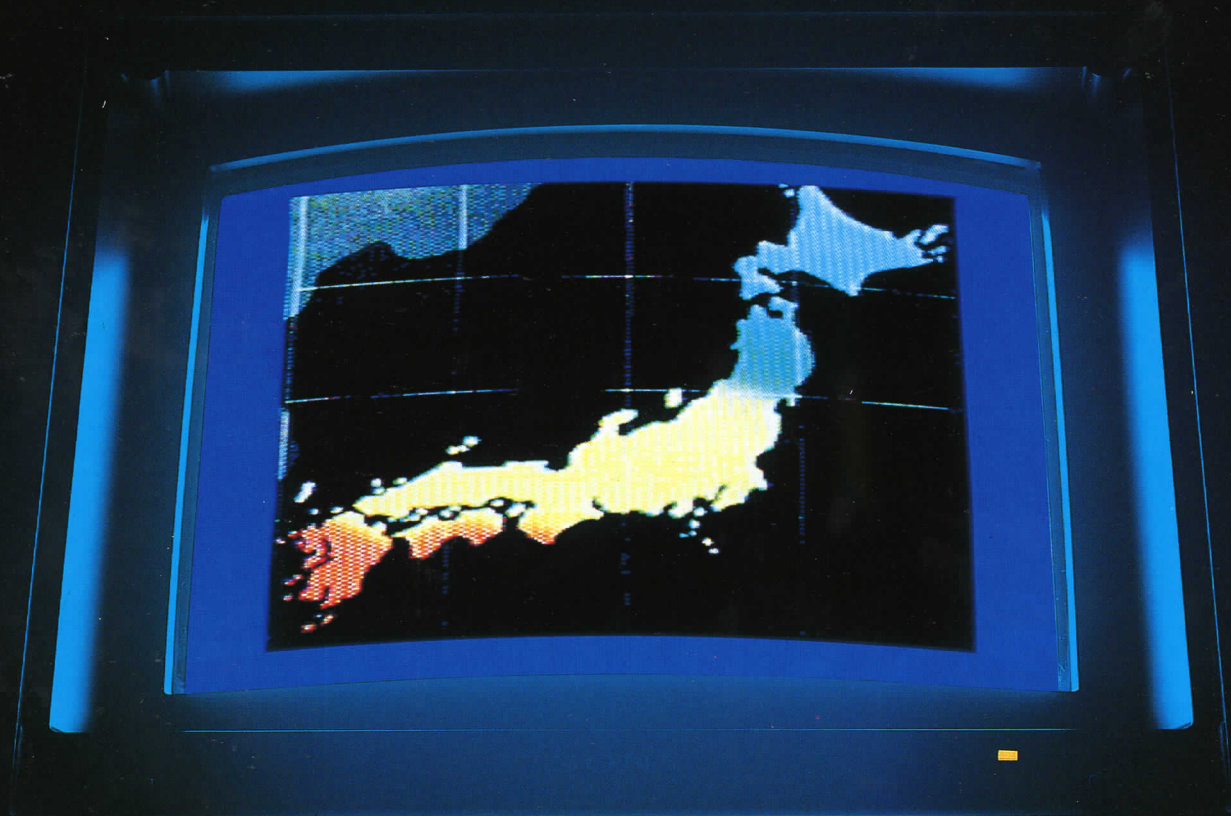
システム部 ■UNIX/informixを採用して、アスキーの業務システムの設計、運用をはじめ技術開発用ホストマシンを含めたトータルネットワークを構築し、社内のマシンシステムの総合管理を行なっています。



アスキーの開発、業務処理及びCBBSサービスを担うVAXシステム

Four Vax systems play an important role in providing CBBS service to our customers, while processing in-office operations.

アスキーとお客様の接点として
意義あるコミュニケーションを図ります。



SALES DEPT.

営業本部



お客様のご要望にお応えするべく、綿密な営業活動を行なっています。
Fulfilling the customers needs with good service and constant communications.

雑誌、書籍、各種ソフトウェア等のアスキー製品を全国書店、マイコンショップ、量販店を通じてユーザーの方々へ提供し、また宣伝活動、ユーザーサポート、イベント、セミナー開催までを総合的に行なう。それが営業本部の役割です。お客様の声を直接聞き、お応えすると同時に各セクションにフィードバックし、新製品の開発や市場動向の把握に結びつけるなど、アスキーとお客様の間にあって有機的な営業活動を展開しています。また、主としてビジネスソフトのユーザーに従来にない教育サービスを提供し、コンピュータを導入する企業へのアプローチを図る活動も推進中。アスキーのプレゼンターとして、常に創意工夫をもってお客様との出会いに臨みたいと考えております。

出版営業部 ■ 出版局、ソフトウェア企画部、HSPが制作・出版している雑誌、書籍、ソフトウェアを全国書店等を通じてユーザーの皆様にお届けしています。どなたもが身近にアスキー製品を手に入れることを目指し、綿密な営業活動を行なっています。

ソフトウェア営業部 ■ ビジネスソフト、ゲームソフトを中心としたコンシューマプロダクツを、パソコンショップ、量販店、デパート、メーカー販売店等を通じてお客様に提供します。また、各ショップに対する講習会の実施、催事のサポートも重要な業務です。

法人営業部 ■ 企業、その他の法人に対し、OA推進のための教育活動を通じ、OAをスムーズに導入するためのサポートを行なっています。具体的には、ビジネスパソコンスクール、各種イベント、セミナーの開催、きめ細かいコンサルティング活動の実践があげられます。

OEM営業部 ■ 主要業務として、テクライト部との協力体制のもと、OEM(取引先ブランド)のマニュアル販売、アフターフォローを行なっています。今後の展開としては従来扱っていなかったOEMソフトの販売、電子マニュアルの開発、販売を考えています。

広告営業部 ■ 自社発行の雑誌、書籍広告の入稿業務を行なっています。広告主に対し、読者調査、購買状況調査、購買動向調査など独自のノウハウでまとめた調査データを基に、より広告効率の高い媒体価値を広告主に提供します。

宣伝部 ■ 企業イメージの形成を主眼点に、多岐にわたる自社製品の広告、キャンペーンの実施や販促活動等アスキーを表現する宣伝活動全般を行なっています。その企画推進力は関連他社との共同催事で実証済みです。

資材管理部 ■ アスキー制作部門にて開発される各種製品の資材発注から製品化、製品管理を担当しています。その中でも特にコスト管理は重要業務。安く、高品質をスローガンに、業務を遂行しています。

本部業務室 ■ 営業本部すべてに関するデータを集計、分析し、本部内各セクションに提示するとともに事務処理サポートを行ない、円滑な営業活動を支えています。さらに統括管理システムを確立し、より活動しやすい環境づくりを目指しています。



販売店を通じて、アスキー製品を広く皆様にご提供します。(photo: 秋葉原)

Via retailers, ASCII products are distributed throughout Japan. (Photo: Akihabara)

トップ直属の各セクションが
それぞれの分野で
アスキーの現在から未来を支えます。



H.T.L.,
HIGH-TECH LAB.

H.S.P.
HOME SOFTWARE PRODUCTS

& OTHER DEPT.S



H.T.L.業務風景
H.T.L. staff members working on computers.

H.T.L. ハイテック・ラボ

アスキーの長期展望に基づき、パーソナルコンピュータの新技术や可能性を具現化する、言わば「未来パソコン研究所」、それがH.T.L.です。1983年設立当初から現在に至るまで、ニューエレクトロニクス・メディアに関し多岐にわたる研究を行なってきましたが、その成果として、ビデオディスク対応のインタラクティブソフトの商品化に成功。さらにC.G.を使ったビデオディスクという新しいジャンルを作り出しました。今後は究極の情報通信メディアとしてのテレコンピューティングの研究をはじめとし、パソコンを真の意味での知的ツールとするために持てる技術を結集しようと考えております。

H.S.P. ホーム・ソフトウェア・プロダクツ

ホームコンピュータ時代に欠かせない豊富なゲームソフト、教育ソフトを開発しているセクションがH.S.P.です。ここではソフトウェア開発にあたり、ストーリーづくり・画面/キャラクター設計デザイン・音声・プログラミングと開発行程を分業化。ひとりのプログラマーが担当した際の単調さを排し、より充実した内容のソフトウェアをスピーデに開発しています。また、このセクションでは、MSXマシン対応のビジネスソフトも開発。簡易ワープロ、電子メモ帳などのソフトがすでに市販されています。

経営管理室・財務部

経理、財務、法務、総務、人事、そして広報と、経営管理室、財務部は社長並びに各役員と直結し、会社の基盤形成から勤務環境の整備までをトータルに行なっている部門です。その業務範囲は非常に広く、社内、社外における事務管理はもちろん、社内情報の総括、コーディネート、さらに資料室データベース構築までを担当。迅速かつスムーズな会社運営に力を注いでいます。今後は資料室データの電子サービス実現など、先端技術を駆使する企業にふさわしい環境を整えると同時に、人材、組織の充実を図り、創意と誠意をもって社会に貢献できる会社づくりを目指します。



経営管理室業務風景
Management Administration Dept.



完成度の高いアスキーのゲームソフトは、絶大な人気を誇っています。
ASCII's sophisticated electronic games are the most popular in Japan for their quality and value.

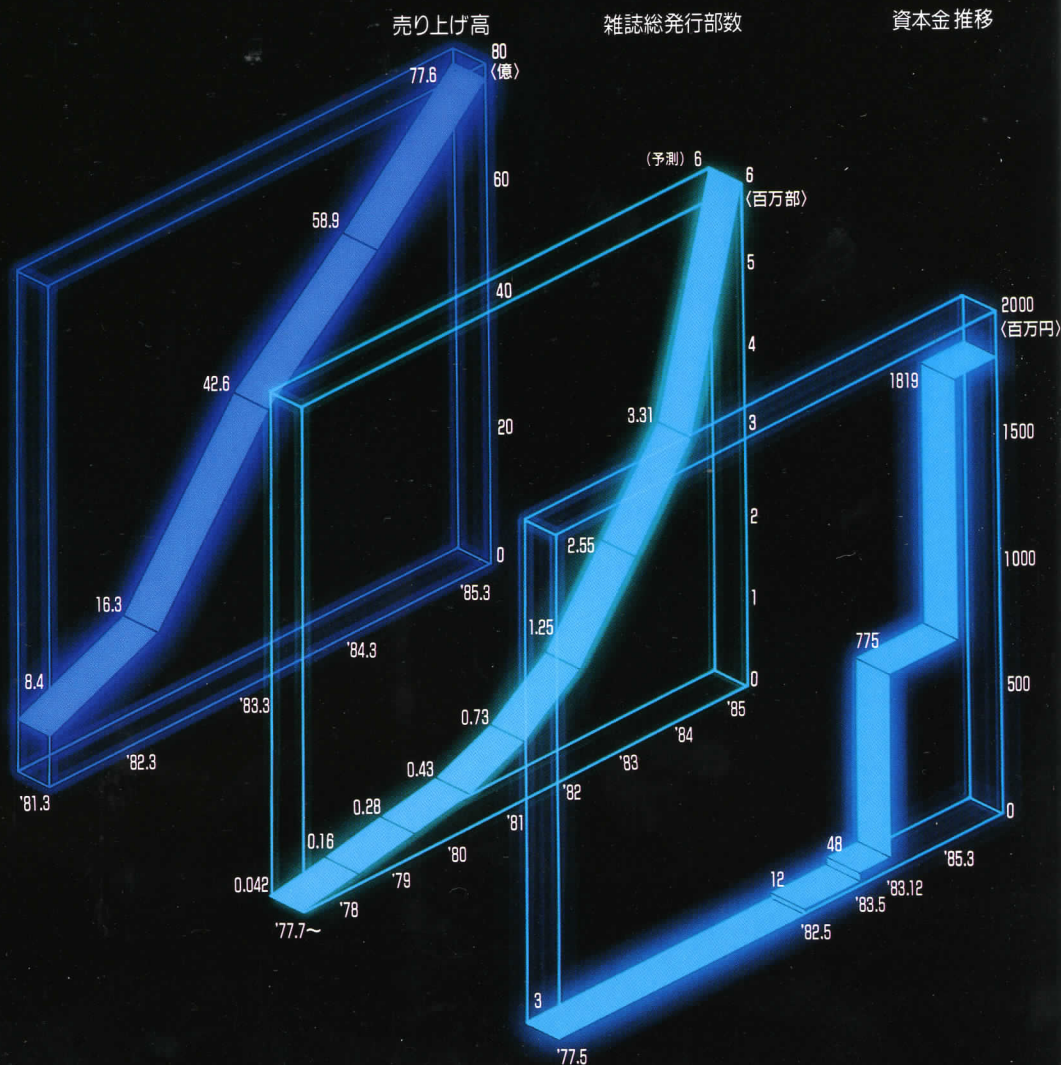
BUSINESS CONNECTIONS

SALES, CIRCULATIONS & CAPITAL

主要取引先

アルプス電気株式会社
 エプソン株式会社
 沖電気工業株式会社
 カシオ計算機株式会社
 キヤノン株式会社
 京セラ株式会社
 三洋電機株式会社
 シャープ株式会社
 株式会社ゼネラル
 ソニー株式会社
 株式会社東芝
 日本アイ・ビー・エム株式会社
 日本楽器製造株式会社
 日本電気株式会社
 日本電信電話株式会社
 日本ビクター株式会社
 ハイオニア株式会社
 株式会社日立製作所
 富士通株式会社
 ブラザー工業株式会社
 松下通信工業株式会社
 松下電器産業株式会社
 三菱電機株式会社
 横河北辰電機株式会社
 株式会社リコー

 住友商事株式会社
 三井物産株式会社
 三菱商事株式会社
 丸紅株式会社

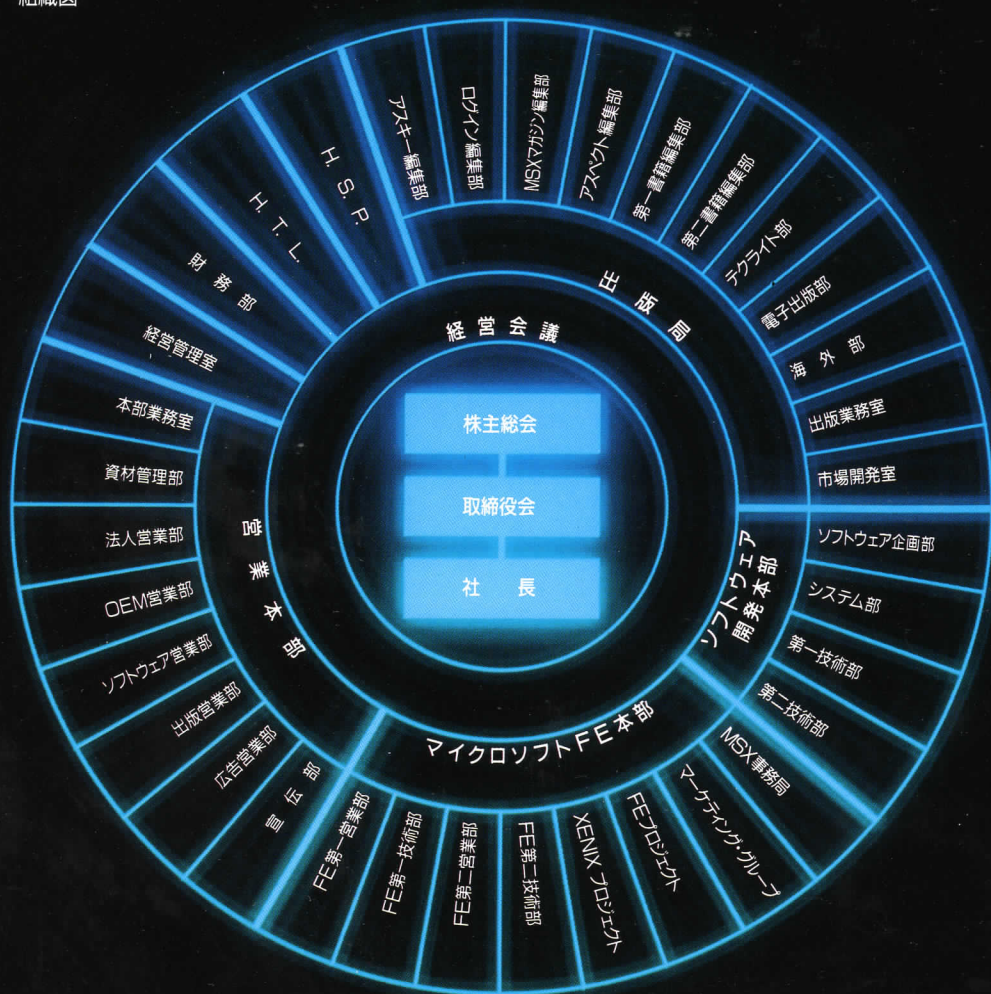


SALES, ORGANIZATION & BUSINESS CONNECTIONS



ORGANIZATION

組織図



主要取引先

石丸電気株式会社
株式会社大塚商会
オムロンマイコンシステムズ
コンピュータサービス株式会社
サトームセン株式会社
真光無線株式会社
株式会社西友
株式会社西武百貨店
株式会社ダイエー
株式会社日本ソフトバンク
日本マイクロコンピュータ株式会社

Bit inn 東京
Bit inn 大阪
ラオックス株式会社
YDKシステムセンター

株式会社大阪屋
協和出版販売株式会社
栗田出版販売株式会社
株式会社コーサカ
誠光堂書籍販売株式会社
株式会社大洋社
株式会社中央社
東京出版販売株式会社
日本出版販売株式会社
株式会社フタバ図書

共同印刷株式会社
三共グラビア印刷株式会社
壮光舎印刷株式会社
大日本印刷株式会社
図書印刷株式会社
凸版印刷株式会社

(敬称略・各項アイウエオ順)



左より▶

取締役●営業本部担当 浜田 義史
Director / Sales Department Yoshifumi Hamada

取締役●ソフトウェア開発本部担当 古川 亨
Director / Software R & D Department Susumu Furukawa

取締役副社長●出版局担当 塚本慶一郎
Vice President / Publishing Department Keiichiro Tsukamoto

取締役社長 郡司 明郎
President Akio Gunji

取締役副社長●マイクロソフトFE本部担当 西 和彦
Vice President / Microsoft Far East HQ. Kazuhiko Nishi

取締役●ハイテック・ラボ担当 吉崎 武
Director / High-Tech Lab. Takeshi Yoshizaki



ASCII

ASCII CORPORATION

SUMITOMO MINAMI AOYAMA BLDG. 5-11-5, MINAMI AOYAMA,
MINATO-KU, TOKYO 107 JAPAN.
TEL / 03-486-7111 TLX / 242-6875 ASCII J. FAX / GII-GIII 406-7163